

第5回エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2011>

2012年5月24日

エコ印刷研究会 エコ印刷大賞選考委員会

環境報告書・CSRレポートは、企業の環境への取り組みを公表し、ステークホルダーとのコミュニケーションを行う媒体として活用されており、上場企業を中心に、少なくとも1,000社以上で発行されています。

今後の環境報告書・CSRレポートの課題は、コミュニケーションのレベルアップ、印刷物としての環境配慮のあり方、印刷物全般への展開などがあります。

エコ印刷研究会では、印刷物の環境配慮に着目し研究を進めてまいりましたが、その成果として2008年4月「エコ印刷大賞」を制定し、「エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2007>」を決定・表彰を開始し、この度、環境報告書・CSRレポート2011年度版205点を審査し、第5回「エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2011>」として大賞 4点、優秀賞 2点、継続優秀賞 2点を決定いたしました。

※環境省「平成22年度環境にやさしい企業行動調査結果」(2012年1月)より

第5回エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2011>

大賞	アイ・ティ・シーネットワーク株式会社「CSR報告書2011」 株式会社サークルKサンクス「社会環境報告書2011」 大丸有コミュニティSR推進委員会「大丸有CSRレポート2011」 前田建設工業株式会社「CSR報告書2011」
優秀賞	NTTコミュニケーションズ株式会社「NTTコミュニケーションズグループCSR報告書2011」 生活協同組合連合会ユーコープ事業連合「CSR報告書2011」
継続優秀賞 ※	株式会社熊谷組「熊谷組グループCSR報告書2011」 中外製薬株式会社「社会責任報告書CSR'11」 <p style="text-align: right;">(50音順)</p>
選考	エコ印刷研究会 エコ印刷大賞選考委員会
表彰式	2012年5月24日(木) 14時30分～16時00分 東京都千代田区岩本町3丁目10番4号 寿ビルディング2階(受付) 地図： http://bit.ly/KjsTeT

※ 継続優秀賞：前年度のエコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート>受賞企業の発行する報告書で、優秀賞に順ずる優秀なもので、継続的な改善を行っているもの

- エコ印刷研究会 (<http://eco-ken.com/eco/>) 連絡先
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-11-8-407
TEL：03-5823-6522 FAX：03-5823-6523 メール info@eco-ken.com

目的

本表彰制度は、下記の2点を目的として、制定した。

- ・ 環境報告書・CSRレポートのエコ印刷度を上げるとともに、印刷物全般への展開を期待する
- ・ 2011年度環境報告書・CSRレポートのベンチマーク資料としての活用を期待する

選考方法

選考対象

「エコほっとライン」等の環境報告書頒布サービスや各社ホームページの資料請求等を通じ印刷物として入手可能で、エコ印刷研究会「環境報告書・CSRレポート印刷仕様調査」(2010年4月～2011年3月実施)において調査を行った205点。

選考委員

- ・ 寺田 勝昭 (P&E マネジメント代表)
- ・ 西原 弘 (有限会社サステイナブル・デザイン研究所 取締役社長)
- ・ 奥山 淳 (エコ印刷研究会事務局)

※ 選考委員プロフィールは、資料2を参照ください。

選考の経緯

2012年4月24日(火)13時より、エコ印刷研究会事務局において、選考委員3名出席のもと、選考会を開催した。

選考の原則

環境配慮の取組みが外形および環境表示から分かること。

表1 選考の原則(2010年度版)

評価項目	評価の原則
森林問題(用紙)	森林問題に配慮したパルプの配合率が高い用紙を使用していること 第三者機関等により配慮内容が確認されている用紙を使用していること
大気汚染(VOC ※)	VOC排出抑制に配慮した印刷インキを使用していること 印刷機器洗浄時のVOC排出抑制に配慮した印刷インキを使用していること VOC排出抑制型の印刷方法を採用していること
リサイクルの取組	印刷物使用後の古紙リサイクル・資源循環に配慮していること 古紙パルプ配合率が高い用紙を使用していること
地球温暖化対策	温室効果ガス・CO ₂ の「見える化」、削減努力、代替手段による相殺（オフセット）など、温暖化対策に取り組んでいること
印刷事業者	グリーンプリンティング、ISO14001、エコアクション21等の環境マネジメントシステム認証事業者により製造されていること
環境コミュニケーション	環境ラベル・説明文表示を通じ、積極的な環境コミュニケーションを行っていること

※VOC: 揮発性有機化合物

一次選考

一次選考では、エコ印刷度算出基準(表2)に基づき、エコ印刷度40点以上の報告書を選考した。

表2 エコ印刷度算出基準(2012年度版)

森林問題(用紙) 配点：25点	
(25点)	古紙パルプ配合率100%再生紙 又は 古紙パルプ70%以上を含む森林認証紙
(15点)	古紙パルプ配合率70%以上再生紙 又は 森林認証紙
(5点)	再生紙(古紙パルプ配合率70%未満又は不明) 又は 非木材紙 又は 間伐材紙
大気汚染(VOC) 配点：25点	
(25点)	ノンVOCインキ かつ 水なし印刷 かつ 水洗浄性インキ
(20点)	ノンVOCインキ かつ 水なし印刷
(15点)	植物油インキ/大豆油インキ かつ 水なし印刷
(10点)	ノンVOCインキ 又は 水なし印刷 又は クリオネマーク(ゴールドプラス又はゴールド)
(5点)	植物油インキ/大豆油インキ 又は クリオネマーク(シルバー)
リサイクルの取組 配点：15点	
(15点)	(古紙再生適性2スターマーク かつ 古紙パルプ配合率70%以上再生紙使用) 又は (リサイクル適性◎A かつ 古紙パルプ配合率70%以上再生紙使用) 又は (「紙へリサイクル可」表示 かつ 古紙パルプ配合率70%以上再生紙使用)
(9点)	古紙再生適性2スターマーク 又は リサイクル適性◎A 又は 「紙へリサイクル可」表示
(3点)	古紙再生適性1スターマーク 又は リサイクル適性○B 又は 「板紙へリサイクル可」表示
地球温暖化対策 配点：15点	
(15点)	カーボンフットプリント表示 ※2 かつ CO ₂ 排出量改善度の表示 ※3 かつ (カーボンオフセット 又は グリーン電力証書)
(12点)	カーボンフットプリント表示 ※2 かつ (カーボンオフセット 又は グリーン電力証書)
(9点)	カーボンフットプリント表示 ※2
(3点)	カーボンオフセット 又は グリーン電力証書
印刷事業者 配点：15点	
(15点)	グリーンプリンティング(GP)認定工場
(9点)	ISO14001認定事業者 又は エコアクション21認定事業者
環境コミュニケーション 配点：5点	
(5点)	グリーンプリンティング(GP)マーク表示 又は エコマーク(紙製の印刷物)表示 ※何らかの説明文表示があるものに限る
(3点)	用紙・インキ・製法それぞれについての環境ラベル表示 ※何らかの説明文表示があるものに限る
(1点)	用紙およびインキについての環境ラベル表示 ※何らかの説明文表示があるものに限る
計100点	

※1 複数の用紙を使用している場合は、主たる用紙について評価した
(例：表紙・本文それぞれの表示があった場合は本文について)

※2 印刷会社等による自主的な算出によるCO₂排出量表示を含む

※3 前年度報告書や同種の印刷物のCO₂排出量との比較等による検証可能な改善度の表示

二次選考

二次選考では、エコ印刷度50点以上の報告書を対象に、一次選考結果、選考の原則(表1)および二次選考基準(表3)に基づき選考委員による審査の上、大賞、優秀賞、継続優秀賞を選考した。

大賞は、エコ印刷度90点以上であり、かつ他と比べて最も優秀であり、我が国のエコ印刷と模範となるものとした。

優秀賞は、大賞に順ずる優秀なものとした。

継続優秀賞は、「第4回エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2010>」受賞企業の発行する2010年度版報告書で、大賞・優秀賞に順ずる優秀なもので、継続的な改善を行っているものとした。

表3 二次選考基準(2011年度版)

評価項目	評価の原則
環境表示	適切な環境表示を行っていること ※ エコ印刷研究会「印刷物の環境表示原則 ver2」(資料4)に基づき判断する
省資源 省エネルギー	過度に厚い用紙を使用していないこと 変形サイズを用いていないこと 特別な加工を行っていないこと
梱包・配送	報告書の配送方法に配慮していること
リサイクルの取組	古紙リサイクルを阻害する加工を行っていないこと
社会貢献活動	ユニバーサルデザイン等に配慮していること

総評

全体の分析

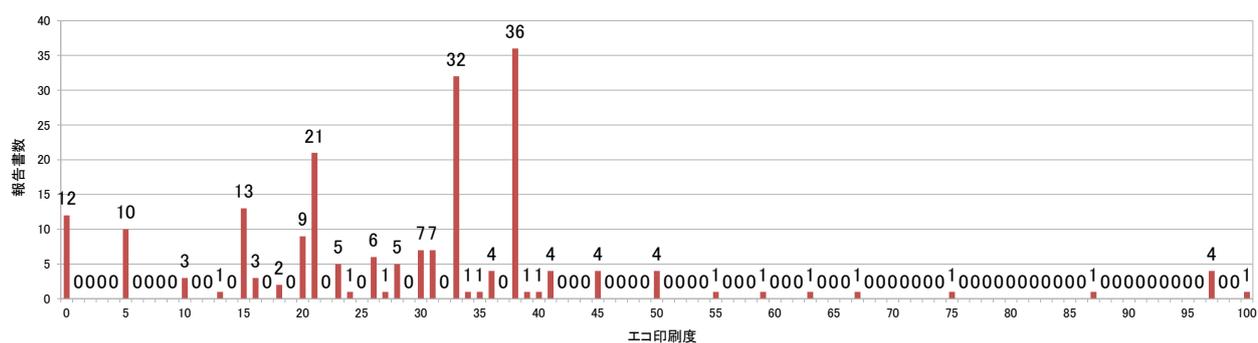
今回選考を行った報告書の分析結果は表4の通りとなる。

205社の平均エコ印刷度は29.4点となり、最も多いエコ印刷度(最頻値)は、38点となった。

表4 エコ印刷度の分析

	森林問題 (用紙)	大気汚染 (VOC)	リサイクルの 取組	地球温暖化 対策	印刷事業者	環境 コミュニケーション	合計点
満点	25	25	15	15	15	5	100
平均点							
2010年 (250点)	13.1	12.0	0.5	1.1	0.7	1.8	29.2
2011年 (205点)	12.1 ↓	12.4 ↑	0.9 ↑	1.2 ↑	1.0 ↑	1.9 ↑	29.4
最高点							
2010年最高点	25	25	15	12	15	5.	97
2011年	25	25	15	15	15	5.	100
大賞報告書の平均点							
2010年 (3点)	25.0	23.3	15.0	12.0	15.0	5.0	95.3
2011年 (4点)	25.0	25.0	15.0	12.75	15.0	5.0	95.75
	古紙100%	水なし ノンVOC 水洗浄	2スター/リサ イクル適性A 古紙70%以 上	CFP グリーン電力 カーボンオフセット	GP認定工 場	GPマーク	

エコ印刷度の分布



【頻度の多かった点数の典型的な仕様】

- 38点⇒森林認証紙＋水なし印刷&ノンVOCインキ＋左記(紙・インキ・製法)の表示
- 33点⇒森林認証紙＋水なし印刷&ベジタブル/大豆油インキ＋左記(紙・インキ・製法)の表示
- 21点⇒森林認証紙＋ベジタブル/大豆油インキ＋左記(紙・インキ)の表示

全体の状況をみると、前年同様、森林問題(用紙)、大気汚染(VOC)は、平均10点以上となっているが、その他の項目は1点前後であり、取り組みの落差が目立つ。

これは、エコ印刷度の分布にも表れており、森林認証紙、ノンVOCインキかつ水なし印刷を採用し、それぞれ環境表示を行っているものが、合計38点でもっとも多い。環境報告書・CSRレポートの典型的なエコ印刷仕様といえるが、その他の項目への広がりが見られないことも同様であった。

合計平均値は29.2→29.4点と若干改善している。古紙配合率100%の用紙を使用するレポートが評価対象205点中わずか12点で、森林問題の平均点が低下した一方で、他の項目の取組が改善された。

大賞4社の平均値は95.75点で前年並みであるが、その中で1社は、「カーボンフットプリント表示かつCO₂排出量改善度の表示」を行い、一次選考で100点を獲得した。平均的なエコ印刷への取組み水準に比べ先進的な取組みが目立つのは、リサイクル0.9→15点、地球温暖化1.2→12.75点、印刷事業者1.0→15点、環境コミュニケーション1.9→5点である。

優秀賞、継続優秀賞では、森林問題、大気汚染だけでなく、リサイクルの取組、地球温暖化対策、印刷事業者、環境コミュニケーション、いずれも平均値を大きく上回っており、総合的な環境負荷削減の取り組みを行っている先進的なエコ印刷物といえる。

選評

アイ・ティーシーネットワーク株式会社「CSR報告書2011」

昨年の優秀賞から大賞となった。

エコ印刷度は、初めて最高得点100点を取得した。W2システムと呼ばれる、水洗浄性インキを使った水なし印刷の採用など、VOC排出抑制に関して最大限の配慮を行っている。また古紙リサイクル適性ランクA適合品の採用や表示、地球温暖化対策では本表彰制度はじめてCO₂排出量の削減量を昨年度と比較した数値で提示した(CFP+削減量+カーボンオフセット)やグリーンプリンティングGP認定工場への印刷依頼とGPマークの表示など、すべての面での配慮が最高水準で実施されている。継続的な活動と頂点へのチャレンジを評価した。

今後の改善すべき点を上げるとすると、この印刷物への環境配慮を読み手に訴求する表現や、根拠データへの案内など環境コミュニケーションの質の向上である。更なる朝鮮に期待したい。

株式会社サークルKサンクス「社会環境報告書2011」

昨年の大賞に続き大賞となった。

今年度は、概要版を印刷物として配布し詳細版はWEBでの公開とした。概要版といえども20ページを超えるものであり評価対象としてふさわしいと認められた。WEBのみでの情報提供とする企業も増えている中で、提供する情報の受け手の「選択可能性」を配慮しつつ環境負荷の低減を実現している。

エコ印刷度は97点と高得点を取得した。ダイジェスト版にも最高の配慮を実行した点が評価された。また説明も印刷物全体のなかでのスペースを割り読みやすく伝えようとする姿勢がわかるものとなっている。さらに、同種類の印刷物としてCO₂削減量の表示に挑戦されることが期待される。

大丸有コミュニティSR推進委員会 「大丸有CSRレポート2011」

昨年度優秀賞からの大賞受賞となった。

選考対象の中でコ印刷度97点であった。すべての項目で最高点を取得し、頂点への継続的チャレンジの実現を高く評価するものである。本文の環境主張と同様にこれからの印刷メディアの環境配慮を発行者からのメッセージとして如何に伝えるかという観点で説明表示を進化させていただければ、なお価値が上がると思われる。

前田建設工業株式会社 「CSR報告書2011」

3年連続の大賞受賞となった。

森林問題、大気汚染、リサイクル、温暖化対策、に続きグリーンプリンティング認定工場への委託なども実施し、最高レベルの配慮が実施されている。古紙パルプ配合率100%再生紙、リサイクル対応型印刷物(㊤)、CFPやグリーン電力の採用、水なし印刷とW2システム(水洗浄性インキ)の採用など継続的な改善活動が実施されており、また、読み手に印刷物への環境配慮を伝えようとする姿勢がわかる説明を高く評価した。今後は、CO₂の改善度表示など、一層のチャレンジに期待するものである。

2012年度版に向けて

企業が発注する印刷物の中で、もっとも進んだエコ印刷が実施されている環境報告書・CSRレポートでは、仕様面では、今年度の分析結果でも明らかになったように、用紙(森林認証紙)、インキ(ノンVOCインキ)、製法(水なし印刷)の3点セットが最も多い。この仕様を環境報告書・CSRレポート以外の印刷物(会社案内、商品カタログ、顧客向け会報誌等)に広げていくことが、エコ印刷普及に向けての現実的な一歩であろう。

一方、環境コミュニケーションのための表示を詳細に吟味すると、環境ラベル(シンボルマーク)の表示のみで説明が一切ない報告書が多くみられる。シンボルマークに隣接して説明文を記載することにより、環境配慮の内容を読み手に伝える取組を期待したい。その際、説明文の記述には、簡潔でわかりやすいことと同時に正確性も求められる。「知らない・誤解・伝達ミス」に起因する誤表示を回避するためには、発注者・受注者(デザイン・印刷等)双方に共通の知識・認識と協力が必要である。

エコ印刷研究会ではエコ印刷チェックシートや表示の原則を公表し、発注者が自社の印刷物の環境水準を容易にチェックでき、エコ印刷度を高めるための活動を推進している(資料4・5参照)。発注者・受注者ともに、エコ印刷プランナー認定研修により、これらのツールも含め、エコ印刷の表示とマネジメントに関する基礎知識を体系的に身につけられることをおすすめしたい。

(資料1)

○ エコ印刷研究会 (事務局長:奥山 淳)

エコ印刷研究会は、印刷物を企業活動に利用する調達者・購入者の立場で、環境に配慮した、責任ある印刷物「エコ印刷」の研究と普及を目指し、2006年4月より、毎月セミナー・勉強会を開催、調達者・購入者の立場での印刷技術、環境対応についての研究を重ねており、これまで100社以上の皆様にセミナー・勉強会に参加いただいております。

また、市場の印刷物の環境対応状況についての調査も行い、環境報告書・CSRレポートは発足当初より毎年200点以上の調査を継続しています。

これまでの研究成果および、実例調査を踏まえ、「環境報告書・CSRレポート エコ印刷大賞」を制定・表彰を開始し、本年度は第5回を迎えました。

また、これらの調査等の知見を各種エコ印刷ガイドラインに提言・改正支援活動を展開してきました。

2010年1月からはエコ印刷の普及を図るため、エコ印刷プランナー講習認定を開始し、2012年3月までに95名が認定されています。認定者の業種別の内訳は、印刷業52名、印刷資機材関係6名、企画制作・デザイン・広告関係14名、出版・一般企業(発注者)等23名となっています。

○ エコ印刷研究会の理念

印刷の歴史は、15世紀のグーテンベルクによる活版印刷の発明まで遡ります。情報(コンテンツ)を大量・廉価に複製し、伝達可能な技術は、世界を一変させ、現在の情報化社会の基盤ともなりました。印刷は、人々の生活、企業活動に欠かすことのできないものとなっています。

しかし、世界中で日々大量に使用され、処分される印刷物は、大きな環境負荷を与え続けています。

その1つ1つは小さく、また企業では間接部門に位置付けられるため関心が薄く、環境汚染の要因とされるまでになっているにも関わらず、印刷物の環境配慮は進んでいるとはいえない状況です。

印刷物の環境負荷低減のための効果的なアクションは、印刷物発注者の意識と行動です。エコ印刷研究会は、印刷物を企業活動に使用する発注者の立場で、「地球と調和した印刷物」を通じて、環境負荷低減、持続的社會に貢献することを目的に、印刷技術の研究や、実態調査、普及活動等を行っています。

※エコ印刷研究会の概要をご参照下さい。

(資料2)

○ 選考委員プロフィール

寺田 勝昭

P&E マネジメント代表 環境スペシャリスト
元共同印刷株式会社 環境管理部長
在任中日本印刷産業連合会グリーン基準や環境優良工場表彰制度の創設に尽力
日本印刷産業連合会、全日本印刷工業組合連合会、東京都印刷工業組合の環境委員会委員
JQA 及びコムデザイン株式会社の環境スペシャリスト
水なし印刷研究会顧問 東京都 VOC 対策アドバイザー
印刷業界の環境スペシャリストとして主導的役割を務める

西原 弘

有限会社サステイナブル・デザイン研究所 取締役社長
ビジネスとくらしをエコスタイルに変える「エコスタイル®」
15年に渡り、「リサイクル対応型印刷物」など古紙リサイクルに関する多数の調査研究に従事。
2011年度はエコアドバイザー（クール・ネット東京）、首都圏家庭エコ診断員（環境省）、「でんきにつき.net」（自主事業）等により、家庭の省エネ・節電指導にあたった。
NPO 法人東京城南環境カウンセラー協議会専務理事、NPO 法人日本ガラパゴスの会理事、グリーン購入ネットワーク（GPN）理事。
技術士（衛生工学部門）、環境カウンセラー（事業者部門）、エコアクション 21 審査人、省エネルギー普及指導員

奥山 淳

エコ印刷研究会 事務局長、コムデザイン株式会社 代表取締役
元通商産業省 紙業印刷業課、広報課
退省後、ソフトウェア開発メーカーの経営陣を経て、コムデザイン株式会社を設立
2006年、印刷物利用者・調達者の立場で、環境に配慮した、責任ある印刷物の研究と普及を目指すエコ印刷研究会を発足

(資料3)

これまでの受賞者

(敬称略 50音順)

第1回エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2007>

- 大賞 日本電信電話株式会社 「NTTグループCSR報告書2007」
- 優秀賞 味の素株式会社 「味の素グループ CSRレポート2007」
- 昭和電工株式会社 「CSRレポート2007」
- 株式会社デイリーヤマザキ 「デイリーヤマザキ 社会・環境レポート2007」
- 株式会社東芝 「CSR報告書2007」
- 東武鉄道株式会社 「2007社会環境報告書」
- トヨタ自動車株式会社 「Sustainability Report 2007」
- 日本ガイシ株式会社 「環境・社会レポート2007」
- 日立金属株式会社 「2007 CSR報告書 日立金属グループ」
- 株式会社ファミリーマート 「ファミリーマート 社会・環境報告書2007」
- 矢崎総業株式会社 「社会環境報告書2007」
- ワタミ株式会社 「ふれあい報告書2007 ワタミグループCSR報告書」

第2回エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2008>

- 大賞 あいおい損害保険株式会社 「あいおい損保の社会的責任CSRレポート2008」
- 優秀賞 NTTコミュニケーションズ株式会社 「NTTコミュニケーションズグループCSR報告書2008」
- 株式会社竹中工務店 「竹中esレポート2008」
- 中外製薬株式会社 「社会責任報告書CSR'07」
- 株式会社椿本チエイン 「椿本チエイン 環境・社会報告書 2008」
- 東京リース株式会社 「CSR報告書2008」
- 日本ハム株式会社 「社会・環境レポート2008」
- 日本特殊陶業株式会社 「Environmental & Social Report 2008」
- 株式会社バンダイナムコホールディングス 「バンダイナムコグループ CSR Report 2008」
- 株式会社ブリヂストン 「社会・環境報告書2008」

第3回エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2009>

- 大賞 あいおい損害保険株式会社 「あいおい損保の社会的責任 CSRレポート 2009」
- 東武鉄道株式会社 「2009社会環境報告書」
- 前田建設工業株式会社 「CSR報告書2009」
- 優秀賞 株式会社熊谷組 「熊谷組グループCSR報告書2009」
- 株式会社サークルKサンクス 「社会環境報告書2009」

株式会社ファミリーマート 「社会・環境報告書2009」

継続優秀賞 NTTコミュニケーションズ株式会社 「NTTコミュニケーションズグループCSR報告書2009」

株式会社竹中工務店 「竹中esレポート2009」

日本電信電話株式会社 「NTTグループCSR報告書2009」

日本特殊陶業株式会社 「日本特殊陶業グループ環境社会報告書2009」

第4回エコ印刷大賞<環境報告書・CSRレポート2010>

大賞 株式会社サークルKサンクス 「社会環境報告書2010」

東武鉄道株式会社 「2010社会環境報告書」

前田建設工業株式会社 「CSR報告書2010」

優秀賞 アイ・ティ・シーネットワーク株式会社 「CSR報告書2010」

株式会社セブン&アイ HLDGS 「CSR REPORT 2010」

大丸有コミュニティSR推進委員会 「大丸有CSRレポート2010」

中外製薬株式会社 「社会責任報告書CSR '10」

株式会社ハピネット 「ハピネットグループCSR REPORT 2010」

株式会社バンダイナムコホールディングス 「CSR REPORT 2010」

継続優秀賞 株式会社熊谷組 「熊谷組グループCSR報告書2010」

(資料4)

エコ印刷研究会「印刷物の環境表示原則」(ver2)

<環境表示5原則>

① 印刷物には環境表示を行う

- ・ 積極的に情報公開し、環境コミュニケーションを行う

② 印刷物利用者の視点に立ち客観的でわかりやすい表示を行う

- ・ 一方的な自己主張ではなく、求められる情報、コミュニケーションとなるよう配慮する
- ・ 文字の大きさ、色、読みやすさに配慮する

③ どのような環境配慮を行ったのかを明らかにする

- ・ 印刷物の環境表示＝環境配慮仕様表示(資材・製法等)＋古紙リサイクル案内・識別表示
- ・ 環境配慮のポイント＝森林問題、大気汚染、リサイクル、地球温暖化…
- ・ 古紙パルプ配合率など具体的など数字情報を示す

④ ライフサイクル全般を踏まえた環境主張を行う

- ・ 一部をもって全体が環境に優位であると誤認される表示は行わない
- ・ 1つの環境影響を減少させる過程で、他の環境影響を増大させる可能性(トレードオフ)に配慮する
 - パルプの漂白工程のみをもって環境配慮型用紙を主張しない
 - 部分的なリサイクル対応のみを主張しない(印刷物全体のリサイクル識別表示を行う)

⑤ 表示内容の担保・トレーサビリティを確保し、責任を持つ

- ・ 印刷会社等から資材・製法等の証明書を受け取り、管理する
- ・ カーボンフットプリント・カーボンオフセット等は算定根拠等を合わせて表示する
 - 掲載スペースに限りのある場合はホームページURLを表示する

<わかりやすい表示のために>

A 環境ラベルに隣接して説明文を表示する

- ・ 説明文の規定のないラベル・マークでも文章で説明を加える

B 多数のラベルを併記する際は、わかりやすく誤解を与えないよう配慮する

- ・ できるだけ総合ラベル(GPマーク・エコマーク)を使用する
- ・ 1つの環境主張に複数のマーク表示を行わない
 - 用紙:森林保全主張に、再生紙使用マーク、非木材マーク等を並べない
 - インキ:VOC排出抑制主張に、ソイシール、ノンVOCインキマークを並べない

C 抽象的・あいまいな表現や誤解を与えかねない表示は行わない

- ・ 「環境にやさしい～」 「エコ～」 「環境対応型～」 といった表現は単独で使用しない
 - 「環境にやさしい大豆油インキを使用しました」等は不適當 具体的に説明を行う
- ・ 環境対応資材・製法等の進捗・普及状況等を踏まえ、過剰に環境優位を印象付けることがないよう配慮する

D 専門用語、固有名詞、造語等はできる限り避ける

- ・ 不可避の場合には、説明を加える

E 印刷物の環境表示とその他の環境表示等を混同して表示しない

- ・ 掲載内容(製品・サービス)の環境情報、発行企業の社会貢献表示等とわかりやすく区別して表示する

エコ印刷チェックシート ver1.05

印刷物の環境への取り組み対象とそれに対応する資材・製法等の対応表です。
右記「印刷発注者の取り組み」を行った上、
各項目それぞれ1点以上、できれば☆の多いものの中から選んでください。

一般的な印刷物(広告宣伝用チラシ・商品パンフレット・業務用印刷物等)を対象としています。
※美術印刷・長期保存等を目的とする印刷物は対象外となります。

印刷発注者の取り組み
<input type="checkbox"/> 印刷物の必要性・有効部数の検討 <input type="checkbox"/> 変形サイズ・特色の不使用 <input type="checkbox"/> デジタル化対応(原稿・校正紙等物のやりとりの電子化) <input type="checkbox"/> 梱包資材へのリユース・リサイクル品・リサイクル対応品の指定

	☆☆☆(3スター)	☆☆(2スター)	☆(1スター)	確認事項
森林問題(用紙)	<input type="checkbox"/> 古紙パルプ配合率100%再生紙 <input type="checkbox"/> 古紙パルプ70%以上を含む森林認証紙	<input type="checkbox"/> 古紙パルプ配合率70%以上再生紙 <input type="checkbox"/> 森林認証紙	<input type="checkbox"/> 再生紙(古紙パルプ配合率70%未満) <input type="checkbox"/> 非木材紙 <input type="checkbox"/> 間伐材紙	<input type="checkbox"/> 非塗工紙:白色度が高くないこと <input type="checkbox"/> 塗工紙:塗工量が多すぎないこと <input type="checkbox"/> 有害物質(アミン)の不使用
大気汚染(VOC)	<input type="checkbox"/> ノンVOCインキ/リサイクル対応型UVインキ + 水なし印刷 + 水洗浄性インキ	<input type="checkbox"/> ノンVOCインキ/リサイクル対応型UVインキ <input type="checkbox"/> 水なし印刷 <input type="checkbox"/> クリオネ(ゴールドプラス・ゴールド)	<input type="checkbox"/> 大豆油インキ/植物油インキ <input type="checkbox"/> クリオネ(シルバー)	<input type="checkbox"/> インキ:新NL規制・PRTR対応 <input type="checkbox"/> 表面加工:石油系溶剤を含まないこと
リサイクルの取組	<input type="checkbox"/> リサイクル適性ランクリスト「A」適合品 + 古紙パルプ配合率70%以上再生紙 ※用紙・インキ・表面加工・製本資材等全ての資材の古紙リサイクル適性が「A」であること	<input type="checkbox"/> リサイクル適性ランクリスト「A」適合品 ※用紙・インキ・表面加工・製本資材等全ての資材の古紙リサイクル適性が「A」であること	<input type="checkbox"/> リサイクル適性ランクリスト「B」適合品 ※用紙・インキ・表面加工・製本資材等全ての資材の古紙リサイクル適性が「A」または「B」であること	
地球温暖化対策(今後の検討課題)	<input type="checkbox"/> カーボンフットプリント ※排出量表示 + CO2排出量改善度の表示	<input type="checkbox"/> カーボンフットプリント ※排出量表示	<input type="checkbox"/> カーボンオフセット ※排出権購入 <input type="checkbox"/> グリーン電力証書	
印刷事業者	<input type="checkbox"/> グリーンプリンティング(GP)認定工場	<input type="checkbox"/> ISO14001 認証事業者 <input type="checkbox"/> エコアクション21 認証事業者	<input type="checkbox"/> 自主的な取り組み ※「エコアップ」(埼玉県)など地方自治体等の取り組みに参加し、環境方針・組織を設け持続的に環境保全活動に取り組んでいること <input type="checkbox"/> エコ印刷プランナー認定	<input type="checkbox"/> 外部製造委託会社の選定 <input type="checkbox"/> 環境報告書等での環境情報公開
環境 コミュニケーション	<input type="checkbox"/> グリーンプリンティング(GP)マーク + 古紙リサイクル案内 ※古紙リサイクル案内には識別表示を含むこと <input type="checkbox"/> エコマーク(紙製の印刷物)	<input type="checkbox"/> 環境ラベル及び説明文 + 古紙リサイクル案内 ※古紙リサイクル案内には識別表示を含むこと ※印刷物個別の環境配慮以外の社会貢献的ラベル(チームマイナス6%等)を除く	<input type="checkbox"/> 環境ラベル及び説明文 <input type="checkbox"/> 古紙リサイクル案内 ※古紙リサイクル案内には識別表示を含むこと	<input type="checkbox"/> 環境省「環境表示ガイドライン」準拠 <input type="checkbox"/> エコ印刷研究会「印刷物の環境表示原則」参照

参考情報

グリーンプリンティング認定制度	日本印刷産業連合会の定めた印刷業向け環境マネジメントシステム http://www.jpri.or.jp/greenprinting/
古紙リサイクル適性ランクリスト	印刷物に使用される資材の古紙リサイクル適性をA~Dの4段階にまとめたもの(日本印刷産業連合会) http://www.jpri.or.jp/recycle/print_recycle/data.html